



の いる 風 景

五十嵐 寿秋 さん



【いがらし としあき さん】 61 歳 桜木

●平成 23 年 1 月から、千歳写真集団の会長として活動している。

カメラ好き・写真好き

カ

メラと最初に出会ったのは、まだ、小学校に入る前だったと思います」と懐かしそうに話すのは、千歳のアマチュアカメラマンが集まる「千歳写真集団」の会長を務める五十嵐さんです。

たまたま家に遊びに来ていた叔父さんが持っていた二眼レフのカメラを不思議そうに眺めていると、叔父さんは、ファインダーのカバーを開けて中を見せてくれたそうです。「さ

かさまに写ったスクリーンの中の虚像がなんと美しいことか、一気にその中へ吸い込まれてしまいました」とそのときの様子を話します。

五十嵐さんが、はじめて自分のカメラを手に入れたのは、18歳の頃。「もう、うれしくてうれしくて、暇さえあればカメラを眺めたり、触ったりしていました」と振り返ります。

今から50年前、東京オリンピックが開催された昭和39年10月に、カメ

ラ好きの仲間10人が集まって「千歳写真作家集団」が発足され、その後、昭和47年には「千歳写真集団」に名称を変更しています。

五十嵐さんは、千歳に住んでから一人で活動していましたが、一人よりも仲間と一緒に活動した方が面白いと思い、平成8年に千歳写真集団に加入しました。平成23年1月には、4代目の会長に就任しています。

写真集団は、活動を休止していた時期もありましたが、現在は、8人の会員で月一度の例会や年2回開催する展示会などを行っています。

例会では、一人、3〜5点の作品を持ち寄り、みんなで点数を付けて評価し合うので勉強になるそうです。

「私も加入した当初は、撮りためてあった写真から気に入ったものを選んで持って行ったので、良い点数を付けてもらえることもありましたが、3か月くらい過ぎると、写真も底をついて

しまい、さっぱりでした」と笑います。今年で創立50年を迎えた千歳写真集団は、節目として、11月に市民ギャラリーで写真展を開催しました。

会員が写した写真、昭和30年代〜50年代の古き良き千歳の写真、千歳の写真コンテストとして、市民の皆さんから募集した写真を展示しました。

同時に、メモリアル50年展「重大ニュースで見るこの50年」と題して、東京オリンピックが開催された昭和39年から次の開催が決定した平成25年までの期間、新聞の第一面に掲載された重大ニュースや号外などを集めて展示したところ、大盛況だったそうです。

「次は、市内全ての写真愛好家の団体に協力をいただいて、合同で写真展を開催するのが夢です」と語ってくれました。

※会員を募集しています。興味のある方は、☎090-2056-4822まで、気軽に問い合わせてください。